

2019年2月1日

新日鐵住金ソリューションズ(株)

2019年3月期第3四半期 決算説明会 主要Q&A

Q：第3四半期の業績（受注、売上高、営業損益）について

A：第3四半期の受注は、対前年比+64億円の639億円となりました。

内訳は、業務ソリューションが+42億円（産業・流通・サービス+10億円、公共公益他+20億円）、サービスソリューションが+23億円です。

第3四半期の売上高は、対前年+108億円の626億円となりました。

内訳は、業務ソリューションが+94億円、サービスソリューションが+14億円です。

産業・流通、鉄鋼が増収になったことに加え、公共公益他で大型プロダクト販売があったことと官公庁向けの基盤系案件を中心に売上高が増加しました。

売上高総利益率は、案件構成差等により20.4%に改善しました。販管費は研究開発費が増加しましたが、営業支援費が減少し前年と同水準です。

結果、営業利益は64億円と前年比+26億円の増益となりました

Q：年度見通し売上高2,580億円、営業利益240億円について

A：本年度は第3四半期までトップラインも営業利益も順調に進捗しています。

第4四半期につきましては、公共公益他を除いて各セグメントとも昨年第4四半期水準を目標としています。公共公益他については、昨年は第4四半期に集中していた売上が今年は第3四半期に順調に進捗しました。今年第3四半期での大型プロダクト販売を除くと下期としては昨年同水準を目標としております。

活況なIT投資をとらえトップラインをしっかりと伸ばしていくとともに、プロジェクトコントロールを徹底し年度見通しの達成を目指してまいります。

Q：新日鐵住金向け売上高の今後の成長について教えてほしい。

A：新日鐵住金は2020中期経営計画で高度ITの活用による競争力強化を重要な施策と位置付けております。また、グループ事業体制強化のニーズもあり、これらのシステム投資に対し、当社としてもしっかりと対応していきたいと考えております。鉄鋼につきましては、今年度495億円を目標としておりますが、引き続き高い水準の活動が継続することを期待しております。

Q：オフィス整備費用について

A：今回、2020年春を目途とした本社地区オフィス整備に関し、現時点で確定した一部費用を計上いたしました。現在、整備施策をつめており、今後、整備施策の内容を固めていく中で、費用が確定した段階で計上する事もあります。

Q：クラウドビジネスの状況について

A：クラウド関連の売上高は3Q累計で約10%の増収です。年度計画達成に向けて順調に進捗しています。

Q：I o Xソリューション事業の状況について

A：I o Xソリューションにつきましては、新日鐵住金の製鉄所での安全見守りソリューションの利用者は順調に増加し1,000人を越え本格的に活用されています。引き続き、屋外作業の安全見守りソリューションとして導入実績を増やしてまいります。今年度の売上高目標15億円に対しては順調に進捗しています。

以 上